徳島県総合計画審議会「若者クリエイト部会」会議録

Ⅰ　日　時　　平成２５年４月１２日（金）１５：２７～１７：３３

Ⅱ　場　所　　県庁１０階　中会議室

Ⅲ　出席者（敬称略）

【委員】１０名中　８名出席

青木正繁（部会長）、福島明子（副部会長）、

川眞田彩、近森由記子、

池添純子、岡田育大、竹内祐介、村松享

【オブザーバー】全員出席（１０名）

板東純平、高木和久、榊原陽子、山下哲央、島知佐、

小原和浩、蔵本聖子、松本秀明、石井里奈、釋子由香梨

【県】

政策創造部長、政策創造部副部長、総合政策課長　ほか

Ⅳ　次　第

１　開　会

２　議　事

（１）国への政策提言に向けて

（２）その他

３　閉　会

《配付資料》

資料①　国への政策提言に向けて

資料②　県政の重要課題等についての意見一覧

Ⅴ　意見交換

（事務局）

それでは、ちょっと定刻より前ではございますが、皆さんお揃いになりましたので、ただいまから

「若者クリエイト部会」を開催いたしたいと思います。

それでは、まず最初に、妹尾政策創造部長よりご挨拶申し上げます。

（妹尾政策創造部長）

皆さんこんにちは。担当部長の妹尾でございます。

委員の皆様、またオブザーバーの皆様には大変お忙しい中、御出席を賜りまして本当にありがとうございます。

この「若者クリエイト部会」でございますが、「若者の若者による徳島の未来創造」のための部会といたしまして、皆様の御意見、御提言を徳島県の新たな政策創造の「シーズ」といいますか「種」となるよう活かしていくために、従来にない、新たなスタイルの会議体として発足をさせていただきました。

皆様には、大胆な御意見を思う存分御発言いただき、まさに自分が県の政策を創造していくんだといった意気込みで御議論をお願いするとともに、部会運営自体につきましても自らお決めいただくなど、従来の県の会議ではあまり例のない新しいスタイルを確立していただきまして、皆様ならではの部会となりますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

本日は「国への政策提言に向けて」をテーマに、意見交換をいただけるとのことでございますけれども、現在、本県では皆様御承知の通り、「人口減少」や「少子高齢化」をはじめ、全国に先んじて直面している様々な課題に対しまして、その「解決策」である「処方箋」を全国にお示しすることで、「日本再生をリード」する「課題解決先進県・徳島」となるべく頑張っているところでございます。

また、地方から国に対する要望は、いわゆる「お願い」、「陳情」ということになりがちなんですけれども、今、本県が行っております政策提言というのはそういうことではなくて、「知恵は地方にこそあり」との気概を持ちまして、「徳島発の政策提言」が日本の標準「ジャパンスタンダード」になることを目指して行っております。

本日は県政の重要課題である「経済・雇用対策」、「安全・安心対策」、「宝の島とくしま」の三つのテーマについて、柔軟で自由な発想によりまして、皆様方の普段の生活や職場などにおいて気になっている点をはじめ、具体的な政策の「着眼点」や「ヒント」となるよう幅広い御意見を賜りたいと存じます。

どうしても挨拶となりますと、堅苦しい挨拶で恐縮なんですけれども、本当に自由で闊達な思い、意見を述べていただければと思っております。どうぞ本日はよろしくお願いいたします。

（事務局）

それでは、この後の議事進行に当たりましては、青木部会長さんにお任せしたいと思います。青木部会長さん、よろしくお願いいたします。

（青木部会長）

皆さんこんにちは。あまり堅くなるとあれですので、今日は本当にお忙しいところ、第一線の皆さんにお集まりいただきありがとうございます。

そして何より政策提言に向けてメーリングリストで御提言いただいた意見等の提出も、皆さんありがとうございます。

今日は「国への政策提言」ということで意見交換を行いたいと思います。

はじめに、やはり堅くなるので、運営について少しお話しいたしますと、前回、１回目は広い大会議室で形式的に行った経緯がございます。今日はやはりもっと、事務局の御配慮もいただきまして、この中会議室というのを御用意させていただきまして、それで皆さん、見てのとおり対面で見えるように、また、五十音順でオブザーバーとも分けずに席も配置させていただいた経緯があります。

それと、御意見の中でもありましたが、皆さん意見を言いますと、皆さん下を向いてカリカリカリカリ、こう一生懸命キーワードを拾うケースがあると思いますが、今日は何か、例えば「危機管理対策」というふうにキーワードを申し上げますと、こういうふうに事務局の方が打ってくれます。つまり、皆さんが言った意見、キーワードをこの真ん中にプロジェクターを通じて見えるということになりますので、島さん、見えますかね。

（島オブザーバー）

はい。

（青木部会長）

よく見えますか。

（島オブザーバー）

よく見えます。

（青木部会長）

はい。大丈夫ですかね。

こういうふうに今日はラフに、なおかつ、御意見を中心にやっていきたいと思ってますので、自由に席も立っていただいて結構です。「これは言いたいよ」ということがあれば、その席だけで座って持論を述べるだけじゃなくて、「いや、これはこうだよ」と、「こうじゃないのか、ねえ」というふうに、「高木さんどう思う」みたいな感じで言っていただいても結構です。それぐらいラフに、そして、いろんな発想の意見交換を僕はやっていきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それで、あまり喋るとずっと喋ってしまって議事が進行しませんので、ここからは座らせていただいて、議事を進行してまいりたいと思います。それでは早速議事を進行してまいります。

さて、今回は「国への政策提言に向けて」という大きなテーマで意見交換をお願いしたいと思います。

「政策提言」については、前回の１回目の会議で事務局から説明を受けたところでございますが、ここで、おさらいの意味で、改めて事務局から説明をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

（事務局）

それでは説明させていただきます。お手元のほうに「資料１」ということでお配りさせていただいていると思いますけれども、「国への政策提言に向けて」ということで、簡単に１ペーパーにまとめさせていただいております。

「政策提言」につきましては、飯泉知事が先頭に立ちまして、先ほど部長の挨拶にもありましたけれども、「知恵は地方にこそあり」と、「日本の羅針盤となる」ということを目標に、「徳島発の政策提言」ということで積極的に取り組んでおるところでございます。

それで、徳島の課題解決の実証地になり得るということで、全国に発信していこうということ、つまり、徳島発の提言が「ジャパンスタンダード」となることを目指して実施しておるところでございます。

提言につきましては、次年度の国の各種政策立案に向けまして、本県の意見が、国の制度設計、あるいは予算編成に対してしっかりと反映していただけるよう、まず、例年やっていますのが「５月の政策提言」ということで、国の概算とかそういう制度が動く前にいち早くということで例年実施しております。

その他、例えば政権交代とか、あるいは国の政策、今でしたらＴＰＰがいろいろ議論されていますけれども、その時折の話題、話題に対しまして、素早く対応して意見を反映させていくということで、国の喫緊の課題に応じて臨機応変に「緊急提言」ということも実施させていただいております。

本日、御議論いただきますのは三つのテーマということで、日ごろ、予算も含めてなんですけれども、三つの重点課題ということで取り組んでいることについて御意見をいただければと思っております。

一つ目ですが、「経済・雇用対策」ということでございます。現下の非常に厳しい経済・雇用情勢を乗り越えるべく、県内経済の活性化、あるいは日本の経済の活性化、新たな雇用創出を図るために、どういうふうな御提案とかアイデアがあるかということを御議論いただければと思います。

それから２点目ですが、「安全・安心対策」、南海トラフの巨大地震とか、大規模災害、あるいは身近な県民の方々の生活、暮らし、安全・安心を守るといったことでの着眼点でお願いしたいと思い

ます。

３点目、「宝の島・とくしま」ですけれども、本県、いろいろ優れた部分があります。ポテンシャルを最大限に活かすことによりまして、我が国の「将来のあるべき姿」を見据えた「新しい時代を切り拓く徳島からの処方箋」ということで、県民の皆様方の夢や希望を実現する何か提案、視点をいただければということで、この３点について御意見を賜りたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

（青木部会長）

ありがとうございました。

それでは皆様には、本日の政策提言の三本柱でもある「経済・雇用対策」、「安全・安心対策」、「宝の島・とくしま」の各テーマごとに大いに御議論いただきたいなと考えております。現状や課題などについて皆さんが普段感じていること、またそれ以外にも施策のヒントとなるキーワード的なことから、こんなものを追加してはどうかといった具体的な提言まで何でも結構でございますので、御発言いただきたいと考えております。

それと、オブザーバーの皆様にも、やはり積極的な御発言をよろしくお願いしたいと思います。

それではまず、三本柱の一つ、「経済・雇用対策」について意見交換を始めたいと思います。

はじめに、私の方から本日欠席をされております蔭山委員さんからの御意見を紹介させていただきたいと思います。

蔭山委員さんからの御意見でございますが、一つ目の「経済・雇用対策」についてでございますが、蔭山委員さん、失礼しました、「蔭山さん」というふうに言い換えます。失礼いたしました。

蔭山さんのほうからは、「保育士をしていた友人に聞いたところ、数年前と比べて今はかなり保育士の給与が下がっているみたいです」と。「パートタイム的な契約だと、月に１０万円いくかどうか。給与を上げようという動きもありますが、急務だと思います。子どもを預かる責任感のいるお仕事だと思いますし、給与が増えれば男性保育士の数も増えるのでは。徳島県は比較的保育所には入りやすいと聞きますが、一方で一時保育は狭き門です」と。「子どもが小さいうちは、フルタイムではないが週に何日間か働きたいという潜在的な働く意欲があっても、一時保育には入れず諦めている人も多いのが現状だ」と。「保育士が増えれば、一時保育の受入数も増えるのでは」という御意見をいただいております。

こういうふうに言いますと、前のほうへこういうふうにキーワードが先ほど説明したとおり入ってまいりますので、こういうふうに意見をどんどん言っていってください。そうするとキーワードとして拾っていただけます。で、「いやいや、僕はこういうふうに思っているのに」というのがあれば、「キーワードはこうですよ」と言っていただいても結構です。このキーワードを拾って施策、政策につなげていきたいと思っておりますので、あまり堅くなると、「いや、これはこうだから、これはこ

う上げてほしい」というのではなくて、先ほど御説明したような、普段から感じられることでも構いません。また、提言というまとめの文章を皆さんが言葉で発するのでなくても構いませんので、その辺は少し緩くいきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは早速、どなたからでも結構でございますので、御発言をいただきたいと思います。なかなか１番に「はい」というと、それで今日はマイクはありません。マイクもなくしましたので、ボタンを押してどうこうというのもございません。ラフに「じゃあ、ちょっと意見いいですか」というので構いませんので、どなたからでも結構ですのでよろしくお願いします。

なかなか１番というのはハードルが非常に高いんですけれども。でも僕もいつも１番に総計審では言うてました、手を上げて。で、１番に言ったからどうこうではありませんので、どなたか。

あっ、もう目が合ってしまったので、岡田さんお願いします。

（岡田委員）

メーリングリストで投げていただいていた・・・

（青木部会長）

岡田さん、分野はこれと違いましたっけ。「経済・雇用対策」ではなかったですかね。

（岡田委員）

僕はちょっと投げれてなかったんですけど。投げていただいていた方の項目をしてもいいんじゃないかなというふうに思ってまして、共有してもいいのではないかと。

（青木部会長）

いいですね。どうぞ。

（岡田委員）

池添さんの「ワークシェアリング」であったりとか、あと「地域のコーディネータの育成」とか、そういうところの御意見が・・・

（青木部会長）

先にじゃあ、ちょっと出たんで、池添さん「ワークシェアリング」についてちょっと・・・というふうに、こういうふうにどんどん進んでいきますので、ですから皆さん、被せていただいて結構です。

（池添委員）

手法としてはすごい前から言われていますし、新しいという感じではないんですけれども、実際に浸透しているかといわれたらそうではないんじゃないかなということで、じゃあ誰がするんだということになると、やっぱり小さい中小企業だったらなかなか難しいと思うんですね。じゃあここは思い切って県庁とか、行政がしたらいいんじゃないかなと思いました。

（青木部会長）

これ新聞に県庁のほうでも確か・・・高木さん。こういうふうに飛んでまいりますから。この「ワークシェアリング」についてなんか、県庁のほうで今どうなんですかね。

（高木オブザーバー）

いろいろ県の中でもワークシェアリングというか、ちょっとこの前も言葉足らずだったんですけれども、子どものための看護休暇とか、多分なかなか男の人って育休が長く取れないような、職場環境が悪いということもあるんですけれども、それがなかなか取れない状況があるので、子どものための看護休暇、病気をしたときに男の人でも１日単位で休暇が取れるような休暇制度とかも徳島県はやってますので、多分、そこら辺は民間企業さんはあるかどうか、そこも企業さんによると思うんですけれども、徳島県が率先してそういうことをやっているのかなと思います。

組織としても、「担当制」をひいて周りの人の仕事もわかるようにとか、そういうことをして、できるだけ休みが取りやすい環境をつくろうとはしとんですけれども、実態としてはなかなかできてないところがあるのかなと思います。ちょっと答えにはなっていないかもしれませんけど。

（青木部会長）

板東さんは取ったんですかね。

（板東オブザーバー）

私はまだ子どもがいないので。

（青木部会長）

失礼しました。高木さん、これを取ってる人は誰か近くでおられますか。

（高木オブザーバー）

最近生まれた同僚がいるので、取るように職場の中でどうですかと勧めます。

（青木部会長）
　そうですか。池添さんのご主人が取られているとのことでしたので。

（池添委員）
　例えば、３年ごととかに行政って部署が変わったりされるんですよね。そうしたら、その３年間はもう午前中だけの勤務でいいとか、そういうぐらいの思い切ったワークシェアリングというか、それで午前だけの人がいるのと、午後の人だけの人がいることで３年間回して、もちろん給料はその働いた時間に応じてとかいうのができるんですかね。

（青木部会長）
　それぐらい思い切った必要性があるんじゃないかという御意見ですね。

（福島副部会長）
　今、徳島県のホームページを見ますと、「ワークシェアリングの導入促進に関するガイドライン」というのが平成１６年につくられてまして、なんか検討会議というのをされているみたいなんです。
　でも、民間においてガイドラインをこうやってしなさいという「薦め」というものと、あと「国での取組」というものがありまして、その中でも「パートタイム」というような捉え方になるのかなと思います。午前中だけとかになると。ですので、いま池添さんがおっしゃったような午前中、この部署が変わるまでの３年間は午前中だけ、午後だけとかというのは、まだなされてないんかなぁというような、今ざっと見る限りではありますので、そういったことを是非この若者のクリエイト部会から提言していけばいいのかなというふうに思います。
　多分、本当に我々って子育て世代で困ると思うんですね。預けるところもなくって。そういうのをどんどんどんどん出して行けばいいかなと思います。多分、今のところは具体的にそういうふうなことは取り組んでないっぽい感じです。

（高木オブザーバー）
　多分、最初の送り迎えをするための１時間とか、最後の１時間とかは確かあったと思いますので。さっきいよったように半分ずつとかという制度は多分まだないと思います。制度上できるかどうかもよくわかりませんが…。

（青木部会長）
　それをじゃあ徳島スタンダードで上げましょうか。
　需要があったら、それが大事なことですので。それを率先して行政、県庁さんからやっていただく

というような意味合いで国へ、それをキーワードとして入れていただければと思います。

はい、ありがとうございます。続いて御意見をお願いいたします。

というふうに今のような感じでいきたいと思いますので、どなたからでも。池添さんは、「経済・雇用対策」はこの観点だけですかね。

（池添委員）

出させていただいたのはこれです。

（青木部会長）

ありがとうございました。

（池添委員）

育児もそうなんですけど、多分、介護で一緒に出させていただいたんですけど、介護休暇を取る率が、この１０年後とかだったら全然変わってくると思うので、育休だけでなくて、本当に５０代とか６０代ぐらいの方がパッと抜けても、仕事が進む地盤は必要じゃないかなと思いました。

（青木部会長）

介護の問題ね。私も専門で職でやってるんですけれども、やっぱり介護の問題と子育ての休暇の問題というのは、やはりまだまだ僕も進んでないというふうには感じておりますので、やはり介護の観点も是非キーワードで入れていただければと思います。ありがとうございます。

それでは、高木さん何か出してましたよね、高木さん。もうしゃべっていただいたので、「経済・雇用対策」についてちょっと御意見を。

（高木オブザーバー）

前回の会議の中でもあったと思うんですけど、「有機野菜とかを栽培する地区を決めて大々的にやったらどうか」とかいうような話も出たと思うんですけれども。で、私もちょっといろいろ知り合いとか話をいろいろ聞きまして、生薬とか、薬膳とかも流行ってるし、あと漢方なんかも最近医師の方とかがよく処方されると。漢方に対する知識が皆さん出てきて使われるようになってきて、非常に需要も見込まれると、高齢化も進むこともありますので。ただ、漢方の素になる生薬というのが、今中国からほとんど輸入しているということで、中国からの輸入がストップしたら、そもそも漢方が製造できないということで非常にリスクがあるという話もあって、大手の製薬会社なんかは県外、北海道とか広い土地があるので、ただ生薬というのが、土地、土地によって成分というか、いいものが取れないと役に立たないので、ただ育てるだけでは駄目ならしいんですけども、そういったところで大企

業で買い取って、それで収益が出てきているという地域もあると。徳島県も生薬が栽培できる土地でもあるというふうに聞きましたので、そういうふうなものを進めていったらいいのかなと。話を聞いてこれをいろいろ調べていたら、徳島県のほうでも政策創造部の方で既に大学校を中心にして進められているような話もお伺いしてましたので、それを拡大していっていただきたいなということです。それを拡大するに当たって、やはり規模拡大とか、あと会社経営とかが、新たに新規参入するのもいいのかなと。

農業とかは若者がなかなか入ってこれないというのも、土日もなく自然と闘いながら家族経営でずっとやっていくという、うちの家も昔は専業農家で、今は兼業農家で土地を貸しているという状況なんですけれども、そういう状況もありましたので、会社か、できれば会社に近いかたちで経営ができれば、そういう若手の方の農業への参入も進んで、しかも規模も大きくなれば採算も取れるんじゃないのかなと。

そういったかたちで、国のほうもいろいろと規制緩和は進めていってくださっているらしいんですけれども、それでも規制緩和を進めていっているにもかかわらず、農業の企業化とか集約化というのが進んでないということは、何かネックになっているところがあるのかなと思います。そこのハードルというのが、私がちょっと調べた限りでははっきりわからなかったので、そこのハードルが取り払われたら、一気に進めていけるようなものがあるのかなと思いまして、提言させていただきました。具体的に何がハードルになっているのかというのはわかりません。

（青木部会長）

わかりました。これ釋子さん、東みよし町で確か・・・お願いします。

（釋子オブザーバー）

私も聞きかじっただけで詳しくはあれなんですけれども、地元の生薬会社さんが東みよし町で取れる薬草の有効成分が高いということで、大手の企業から売ってくれんだろうかという需要に対して全然足りてないと。で、やっぱり耕作放棄地とかもあるので、結構育てやすい薬草らしくて、植えてたらすぐ２、３年間生え続けるみたいで結構簡単なので、耕作放棄地と一緒に取り組んで地域も活性化できるし、その薬草を飲んで健康的になって、みんながハッピー、ハッピーになったらいいなという話をいただいたことがあります。

（岡田委員）

いいですか。ちょっとこれが合っているかどうかわからないですけど、「経済・雇用対策」ということで、定年って今何歳かちょっと僕もわからないんですけど、６５か７０歳ぐらいで迎えた方々が、東京で就職されて定年まで全うされた方が地元のほうに帰ってきて農業をするケースは結構増えてき

ていると思うんです。

一人聞いたのは、ＩＢＭに就職されていて、元システム系だったんですけど、八十八箇所のお寺さんと仲良くて、お寺さんの持っている土地で農業をさせてもらっていて、それがすごくリフレッシュになるとかという話があって、そういう６５歳定年以降のそういう人材を上手く使って農業をやってもらったりとか、もちろんそのノウハウがあるというか、地元でずっとやられてた方は当然農業に対するノウハウをお持ちなので、そういったところを共有してもらいながらやっていってみるという、そういうのを促進してあげるのもいいんじゃないかなというふうに思うのと、あと、観光型農業みたいな感じで「六次産業化」とかいわれていますけど、若者にすぐに農業をやってくださいというのは、やっぱりまだちょっとハードルが、もちろん興味がある人はいっぱいいると思うんですけど、ハードルが高いところもあるので、観光で触れ合ってもらいながら入ってもらうとか、そういったことも推奨していってもいいんじゃないかなと思います。

（青木部会長）

そうですね。確かに農業を、これは高木さん、今の岡田さんの意見もそうなんですけど、やっぱり若者が就職したり農業をするために法人化がどうとかという御意見が確か、その辺をちょっとだけ教えてほしいんですけど。僕もピンとこなかったので。すみませんが。

（高木オブザーバー）

人それぞれ価値観はあるんですけれども、農業をしたいと、興味はあるということでやられる方もいらっしゃるんですけれども、やっぱり採算がなかなか取れない、農業は最初難しいですので、素人が入ったとしてもなかなか採算が取れないということもありますし、あと、農業って自然と一体になってやっていくものなので、定期的に休みがあるわけでなく、生活として、私は公務員として基本的に週５日働いて、休みがあってというサイクルがあって、ある程度計画が立てれるような、そういうものを望んでいる方というのは農業はなかなかやりにくいと思うんですけれども、法人化されることによって、ある程度規模が確保できて従業員も多くなれば、定期的な休みができて自分の生活スタイルに合った働き方が農業でもできるようになるのかなと。会社、法人化して、拡大というか農地を集約して需要も多くなればそういうかたちができるのかなと。

これは私が前に長寿保健課におったときも思ったんですけど、社会福祉法人なんかも、結構１施設１法人ということでやられているところが結構徳島県内多いです。それはそれでいろいろ特色があってメリットがあるところもあるんですけれども、もうちょっと大きくして、大きくなったときのメリットもあるのかなというのもありまして、一長一短はあると思うんですけれども、新規に若者を雇用するに当たっては、こういう農地を集約しての法人化というのをしていってはどうかなと。ちょっと素人域なんですけれども・・・

（青木部会長）
農地の法人化というのは、全国でないんですか。

（高木オブザーバー）
ありますね。多分農地を取得するために、「農業生産法人」とか、そういうものを取得せないかんのですけれども・・・

（青木部会長）
そのハードルを下げて・・・

（高木オブザーバー）
規制自体はいろいろ緩和されていっているみたいなんですが、それでもなかなか乗り出してこないということは、広がっていかないということは、何らかのハードルがあるのかなと思いますので、そこがわかればそういうところの規制緩和なり、何か提言というのができて、それが徳島に結びついていけるかなと。

（青木部会長）
そうですね。逆にどこもやってなかったらええなと思ったんですけど、逆な考えでいうとね。わかりました。
それに関連して、近森さん、前の会のときに有機野菜のことを近森さんが言われておったと思いますけど、農業関連でこのままきたので、御発言をお願いできますか。

（近森委員）
私の知り合いでお野菜をつくっておられる方がいて、本当に有機肥料で無農薬でされているんですけど、「有機野菜で売れるじゃないですか」と言ったら、「有機ＪＡＳ認証」というのをちゃんと取得しないと、そういうものとして売ることができないらしいんです。

（青木部会長）
「有機ＪＡＳ認証」は、すみません勉強不足で、「有機ＪＡＳ認証」というのはどこがどのようなあれをされているんですかね。

（近森委員）
「有機ＪＡＳ認証」は、私もチラッとしか知らないのですが・・・

（青木部会長）
公共団体か何か、そうじゃなくて農業団体とか。

（近森委員）
ごめんなさい。私も勉強不足なんですけれども・・・

（青木部会長）
はい、調べますから。こういうふうにやりますから。はい、どうぞ。

（近森委員）
私もテレビで見たことがあるんですが、何年以上農薬を使っていませんとか、隣の農地とある程度離れてないと駄目ですとか、かなり厳しいチェックがかかるんです。もちろんそれは消費者にとったらかなりありがたいことですけれども、それを個人でするというのは、結構大変なことではないのかなと。そういうのを国レベルで支援している制度があるのか、私も調べてないですけれども、そういうのがあればもっと有機野菜というのも徳島県内で生産できて、更にそれをもっとみんなでやっていけるかなと思います。

（青木部会長）
それは是非、有機野菜がそれで保証されて、逆に消費者側から見ると、そういう認証があれば間違いない、これを選ぼうよということになるというわけですね。そういう観点ですね。わかりました。

（福島副部会長）
認証自体は農水省がやっているみたいです。何か、ＮＰＯであったり財団法人であったり、ほか会社もそうなんですが、それぞれに与えてどこでつくるかというのは、多分その人たちに依存しているような感じがするんですが、国内でつくるのに限っては認めますとか、何県、何県でつくるのに関しては認めますという、それぞれ海外も含めまして、それぞれの会社によって違うみたいですので、何かあるのかもしれません。そこに登録していただけるようなＮＰＯなり、企業なりが徳島県から出てくればいいかなと思います。

（青木部会長）
逆に是非それをこういうので、今のはいい案かなと思いますので、私も勉強しておきます。それは農水省なんですね。これまたハードルが高いですね。高木さん、また見ておいてくださいね。農水省です。お願いします。

観点でいうと農業ばかりですが、他に何か農業関連でございますか。「経済・雇用対策」ですが、ちょうど農業の話がずっと続いてますので、何かございますか。

（松本オブザーバー）

農業の係をしているので、ここで言うとかんと言うことがなくなるので。

僕も農業の係をしていて、これからって農業の法人化というのが非常に重要なのかなと感じながら仕事をしているんです。

先ほどメリットをいろいろおっしゃってましたけれども、まさにそのとおりで、安定のしていない仕事という意味で就職を嫌うと思うんですけど、最近の若者、昔からそうかもしれませんが。規模が大きくなることによって経営も安定するし、規模が大きくなると生産量も大きくなるので、販売戦略がそれぞれ立てれるようになるんです。

ですから、今だったら農協に出荷して市場へ出荷して、その市場がまた市場へ出荷して、それからスーパーへというような感じで、農家は儲からないけど間で儲ける人が何人か存在するという流れがほとんどなんです。

規模が大きくなると、生産者から直接流通させることができるので、メリットはかなり大きいと思います。

それと、今、ちょっと私どもでアンケートを実施しているんですが、耕作放棄地というのがどこもそうかと思いますが、神山町では問題になってきているんです。その中で、「あなたは農地をどうしたいですか」という質問に、「貸したいですか、そのままにしますか」というような問いに対しては、大体の人が「荒らす」と、「そのままにしておく」というのがほとんど。というのは何かというと、「誰でもには貸したくない」という意識がどうも強いみたいです。

で、知らん人に貸して荒らされたのでは困るので、しっかりした人、知っている人にしか貸したくないというのが、どうもかなり意識があるみたいです。

そこで法人格があれば、「法人に対して貸すのであれば、しっかりしているので貸しますよ」という事例はかなり増えると思うんです。そういう面からみても法人化というのはかなり重要になってくるのかなと思います。

（青木部会長）

そういう意味での法人化なんですか。わかりました。

（福島副部会長）

法人化というのは、国がかなり押していることですね。それで、何が問題かというと、多分それをまとめる人がいないというところだと思います。この田舎であれば特に。

なので、じゃあ誰がどんなふうに、経理も含めて販売戦略も、あとは農業経営も含めてどんなふうにやっていくのかというのを教えてくれるところが、もし県のどこかの部署であれば、そういうのも相談に来て、「じゃあ、やろうか」という人が現れるのかなという気がするんですけれども、それもまた県の方の負担にはなってしまいますので、何かそういうことを勉強できるというか、困ったときに聞きにいけるようなところが・・・（アドバイザーみたいなのがいるんですね。）そういう人たちも育成していかないと、なかなか難しいかもしれません。

（松本オブザーバー）

おそらく法人化されないのは、特に法人化する必要がないからでしょう、目的が。自分のところの農業をするためには、特に法人化する必要はない。

僕が言ったのは、放棄地の問題とかというのを、町としては、行政としては解決してほしいところがあるんですけれども、個人としては全くそういう必要性はないんで。そういうところだと思います。

（青木部会長）

これは難しいな。これをずっと議論するのは難しいな。真剣な話。

福島さんが言ったのは、アドバイザー的な相談できるようなというのが一つ、もしかしたらあるのかもしれませんけど、もう既に。逆に言うとあるのかもしれないけれども、それを是非していきたいと思います。それと法人化ですね。

はい、どうぞ。

（池添委員）

耕作放棄地の視点から言ったら、住環境的な視点からいくと、いきなり耕作放棄地が、徳島の場合は売られてミニ開発みたいな住宅が建つようなところはないかもしれないですけど、そうやって景観を壊すという意味でも、法人化してしっかりとここは農地であって、日本の農村の景観を守るという視点では大事かなと思ってます。言っている人たちもいますし、実際にやっているところもありますので。

（青木部会長）

景観を壊さないための、そういった観点で・・・

（池添委員）

はい、棚田とかはその一例だと思うんですけど。観光面からもそういうことで人を呼ぶのであれば大事です。

（青木部会長）

他にございませんか。はい、どうぞ。村松さん。

（村松委員）

観光のことが出たので、ちょっとアイデアがあるうちに。

（青木部会長）

どうぞ、そのアイデアを言ってください。

（村松委員）

本当に畑とかって景観の一部で、おっしゃられたように。我々の団体の理事長なんかはずっと前から畑を守って、その畑が集落にある景色こそがヨーロッパであれば魅力だし、祖谷とか日本でもそういう棚田であったり田園風景というのが一番観光の財産になるんだということは強く言っているんですけれども、本当にそうだと思っていて、同時に、さっき農業の話が出ている中なので、若い世代で農業を志したいと思っている人たちの農業というのは、従来の農業とは少しカテゴリーが違うのかなというようなのは感じていて、野菜をいっぱいつくってそれで生計を立ててということが、もちろん昔の人も美味しい野菜をつくって、それがたくさんできて売れればハッピーだったんですけれども、もう人口はどうしても減っていくでしょう。

ですから、絶対的な何に関しても需要であったり、消費というのは小さくなってくると思うんですけれども、そんな中で、もう少し暮らしの質であったりですとか、地震があった後に実際食べるものに対する考え方も大きく日本の中で、我々世代とか、これから子育てをしていく世代の中で変わっていると思うんです。

やっぱりいいものを、自分たちでできればつくりながら、質のいいものを食べながら生活していきたいという思いのもとに、自分が農業をやってみたいということだと思うんです。

ですから、質を求めた農業というか、あまり大規模なことを、もともとの思いとしては目指しているのではないと思うんです。ですから従来の方法で採算が合うようにというと、それはやっぱりなかなか難しいことであって、それは小さいファームが個人ファームみたいなのが一緒になってある程度の流通の量を確保できるようになれば、先ほど松本さんがおっしゃられたように、いくつもいくつも仲介業者が入って農協がという従来の仕組みじゃなくても、いいものがほとんど直接消費者のもとに届けられるような仕組みになるんじゃないかなというふうに思っています。

ですので、そういったところをサポートしていけるような仕組みが、行政主体でできたらいいのかなと思うのと、先ほど岡田さんのほうからあった、リタイアした人が地元に戻って農家をしてみたいというような、そういう傾向も結構あると思うんです。気持ちの中には。

ずっと働いてきた人たちが、東京のコンクリートまみれの中で頑張ってきて、じゃあ、地元があるのであればやっぱりそこに戻って、ある種人間らしい暮らしをしたいというふうになったときに、でも途端に土ばかりのところに来てもやっぱり何もできない。でも、思いはあるし、使えるお金もそこそこあるとなったときに、やっぱりそこで、「それなりのお金を出しますよ」といったときに、ある程度サポートしてくれるような仕組みがあれば、そうした人たちが来れるのかなと。

それで、地元の人たちに経済的な還元をしてくれるのであれば回るのかなと思っていて、そういうところに、サポートする人材として若い人材をトレーニングして、そういった人たちが、スーパーバイザーみたいなかたちで雇用されるようなかたちができれば、また新たなかたちでの農業というものを、つくる農業というものよりも、農業自体が商品みたいな、価値みたいなことにもできるのかなというふうには、皆さんのお話を伺いながらちょっと思いました。

すみません。まとまってなくて。

（青木部会長）

いいえ、ありがとうございます。逆にまとめていただいて助かります。岡田さん、何か今の意見で。

（岡田委員）

同感で、多分両方あると思うんです。その、資本主義的な、大きなところを推奨していかなければいけないところと、あとは、ハートの心の部分みたいなところを求めるところの、多分両面が共存しているような、並存しているような状況だと思うので、それを多分切り分けて・・・（両方要るでしょうサポートは。そういう意味じゃなくて。）多分、「有機ＪＡＳ」とかという大きいところになると、やっぱりそこを目指していかないと難しいと思うんですけど、個人で、自分たちで消費する分には、別にわかっているから、土も水もわかっているから大丈夫という安心感があるので、やっぱりそういうふうに分けて考えてもいいかなと思います。

（青木部会長）

わかりました。ありがとうございます。他に農業関係はもうよろしいでしょうか。農業関係でこれだけは、「私はこういったアイデアがある」とか、「こういった方向性はどうか」というのでもいいんですけど、農業関係はいいですか。

では、「経済・雇用対策」、次は農業分野でなくて、「地域づくり」や「まちづくり」的なことで御意見をいただければと思います。

板東さん、御意見を。もちろん、提言をあげていただいていたのですが、思いをお願いします。

（板東オブザーバー）

難しいことではなくて、メールの中にも書いたんですけれども、要は、その地で生まれ育った方ではなかなかわからないことが、やっぱり現実にはあると。

ここにいらっしゃる方もそうだと思いますけど、県外出身の方、それから県の外に今出られている方、それから年代としてもまだ「若者クリエイト部会」ということになっている若い世代ですので、それぞれ徳島を客観的に見る目というのはある方が多いのかなと思ってます。

それで、そういう方だからこそ見えてくるものがきっとあるでしょうし、多分この部会に期待されているのも、そういうものの見方だろうと思うんです。

それでいくと、メールの中に具体例として書いたのは、「篪庵（ちいおり）」のアレックス・カーさんの話ですけれども、多分、地元の方もそういう「篪庵」という建物、以前はかなり傷んだ建物だったと聞いてますけれども、それを見て、「これはいいな」と思った感覚というのは、やっぱり地元の方には残念ながらそのときはなくて、でもアレックス・カーが思っていてくれて、だからこそ、今の「篪庵」があるということだと思うんです。そういうことを掘り起こしてくれる人というのが、もっとたくさんいてくれたらなあと思ってます。

多分、徳島にも、それに類するというか、わかりませんけれども、まだこういう芽というのは多分、素材はあると思うんですけれども、それが現実なかなか良さがわかっていない、わかられていない、発信ができていないというところはあると思います。

メールの中にも載せたんですけど、そういう制度はあるようでして、よく似た制度で、「地域おこし協力隊」という、もっと若手、素人の方が入っているものと、それなりにプロフェッショナル的な経験を積んだ方と、それが私がメールでリンクした、あの制度なんですけれども、どちらかというと、プロの方の目というのが必要なんじゃないかなと日ごろ思っていて、ですので、誰でもというのではなくて、それなりの経験者が地域のことを見て、アドバイスしてコーディネートして売り出していく。

売り出していくときには、単にあるものをそのままというのでは、なかなかでしょうし、というのは、「篪庵」だってアレックス・カーさんが改修して、床暖房まで入った非常に快適な建物になっているわけですよね。ああいうふうに上手いことつくり変えて、パッケージして売り出していくと、花開くということがあると思うんです。

そういうのを制度化がされているようですし、もっと活用できたらなと。事例がどれぐらいあるのか、すみません、私はきちんと調べ切れてないのですが、そういう潜在力を活かすような取組というのがもっと広まったらいいなあということを思って書いております。

（青木部会長）

このコーディネーターは「地域力創造アドバイザー」ですかね。そういう制度が・・・

（板東オブザーバー）

すみません。ちゃんと調べずに書きながら調べていったので。実はそういう制度があったというのをあとから書きながらわかったので、竜頭蛇尾みたいな文章になってしまったんですけれども。要はそういうことではあったんです。

（青木部会長）

県内にもそういうコーディネーター的なものは、各市町村にあるんではないですか。

（板東オブザーバー）

先ほど言いました、「地域おこし協力隊」は入ってくれているんですけれども、若手の方が、それこそ大学を卒業してすぐの方が、（ドラマで・・・）そのドラマの話は、私自身は見ていないので・・・

（青木部会長）

ドラマで。みんなドラマ見ていませんか、四万十の。岡田さん、見ました。

（岡田委員）

見えてないんですけど、話は（知ってます。）・・・

（板東オブザーバー）

勝浦とか三好とかにいらっしゃる方は、そういうのも一つのやり方だとは思うんですけど、売り出し方がちゃんと見えている方がいらっしゃるといいなあと。

ドーンと飛び込んでしまえというのが、多分「地域おこし協力隊」だと思うんです。もうちょっと戦略を立てて、先ほどの有機農法でつくった農産品もそうですし、地場でつくった美味しい食べ物、野菜でもいいですし、他にもちょっと、農業の話が多いので商業系の話でいくと、何でもいいんですが、例えば服の話だとすると、ここに行ったら、スーツでも服でもメガネでも靴でも何でもオーダーできる店がいっぱい揃ってますよとか、古い家具、家電でも、ここに行ったら何でも修理できる人たちがいっぱい揃っていますよという、こういう集まりがあるとそれはそれで多分売り出せると思うんです。

そういうことをコーディネートしてくれるのは、ちょっと「地域おこし協力隊」とはちょっと違うかなというのは、私が思っているところです。

（青木部会長）

それは違いますね。

これは、徳島にもこういうのは何かあるんじゃないですか。小原さん。

（小原オブザーバー）

そうですね。アドバイザー的なのはいろんな制度で、先ほどのアドバイザーの制度にも徳島市の方もいらっしゃいますし、何か企画とかするときにそういう制度を利用して、ちょうどいい分野のアドバイザーに来てもらってアドバイスをもらうとか、そういうのは、いろんなところでやっています。

実際にやっているんですけれども、ちょっとどうかなと思うのは、折角来て、いいアドバイスをいただけるんですが、それをどこまで実際の事業で反映できるかというところで、やっぱり外からの意見をそのまま受け入れるというのは、なかなか厳しいところもあったりするので、その辺を受け入れる側のほうで、ある程度この人からもらったのを、その人を信じて走っていくというように、そういうのができるようなベースになる意思統一というか、そういうところができてないとなかなか活用しきれないなというのを思います。

（青木部会長）

竹内さん、逆にいうと、ＩＴのほうでこういう受入がスムーズにいったということですか。

（竹内委員）

ＩＴは特殊で、パソコン１台あったら仕事ができてしまうところがあるので、たまたま受け入れやすかったというだけじゃないかなと思うんです。

全部に適応するのは、なかなか、またいろんなところで問題が出てくるのかなと思います。

（板東オブザーバー）

でも、神山も大南さんがいて、昔から今の取組をされていたでしょうし、町としても「アーティスト・イン・レジデンス」とか、そういうユニークなものが、そういうものが積もり積もって、今、「サテライトオフィス」ということに、多分繋がっているんでしょうし、当然時間はかかるんでしょうから。例えば、「いろどり」でも、横石さんが昔から反発というか、いろんなことがありながらもやってこられたと聞いておりますし、一朝一夕でいくものではないんですけれども。例えばこういう特徴をつくって売り出していくというものでないと、埋没してしまうなということはあると思います。

（青木部会長）

これは難しいな。これまた。

（板東オブザーバー）

すみません。提言ではないですけれども、そうだったらいいなぁという話です。

（青木部会長）

そうだったらいいなぁということですからね。逆にそういった制度もあるということですけれども、何か徳島で、逆にそれがなければまたもやオンリーワン的な意味合いであれかなと思っていたので。わかりました。でも、そういったアドバイザーの制度というのを是非ね、逆にいうと、それを大きく広げていかんと、今言ったような「地域おこし協力隊」であるとか。「地域おこし協力隊」というのを、僕はドラマを見て初めて知りましたから。そういう制度があって、そういうあれがあるんだというのを覚えたぐらいですから。逆にそういった制度をもっとＰＲしていかないとあれでないかなと。

（板東オブザーバー）

多分、それこそ農業分野に興味を持っている方とか、そういう方に来ていただくこともあるかと思うんですけれども。

（青木部会長）

それではドラマを呼びましょうか、という冗談はさておいて。わかりました。ありがとうございます。

あと何か「経済・雇用対策」において、そういった、農業じゃなくて地域づくりで何かありますか。

岡田さん、何かある。いつも目が合うんです。岡田さんと。

（岡田委員）

しゃべりすぎるといけないと思って。

僕はコーディネータの育成というのを、個人的にやれているかどうかはわからないんですが、地元を発信するということで、いつも毎年ニューヨークに阿波踊りをしに学生とかを連れて行っているんですけど、そうやって「地元を発信するんだ」という思いで、海外へ出た子たちというのは、わりあい帰ってきてから、地域のコーディネータ的な役割を自ら進んでやっていったりとか、そういう傾向にあって、それはやってからわかったことなんですが、カウントダウンのイベントをしてみたりとか、そういうふうにちょっとずつ意識がなっていくみたいなところがあるので、もしかしたら一回徳島を発信してもらう人をつくるとかというようなところにいて、「観光大使」みたいになるとまたちょっと・・・（観光大使ローカルとか、若者観光大使をつくる。じゃあ。）何かそういうことでもいいかもしれません。

（青木部会長）

わかりました。ありがとうございました。

他に、じゃあ蔵本さん、お願いします。小松島の事例でもいいので、何かそういったアドバイザー的な・・・たぬきのゆるキャラがありますね、「クマポン」ですか。すみません、「コマポン」です。

（蔵本オブザーバー）

特徴をつくるとか、徳島を発信する事業をつくっていくという観点に似ているのかなと思うんですけれども、県のホームページのトップページの下にバナーを張ってある「阿波ナビ」とかいう部分で、徳島のいろんな食べ物とかお店とか関係なく情報を載せているページがあるんですけれども、それにプラスして市民から発信をしてもらうというふうな意味を込めて、例えば、「フェイスブック」でいう「いいね」のボタンとかいうふうな感じで、「自分はそこに行ったけど、このお店が良かったよ」とか、「自分もそこに行ってすごく良かった」というのを、例えばパッと見てわかるような、数字で拾い上げていくとか、そういった観点から「阿波ナビ」のページをもうちょっと改善をしていくと、例えば、ホームページから発信をされているだけじゃなくて、「実際に行った人が『いい』と言っているから実際に行ってみようか」みたいな感じになると思いました。

（青木部会長）

はい、わかりました。ありがとうございます。率直な御意見、ありがとうございます。

他に何か御意見ございますか。

皆さん、だいぶちょっと疲れてきているので、ここで休憩を取ります。部会で「なんで」と思いがちですけれども、あえてここで１０分間、ちょっとコーヒータイムを取りたいと思います。

「これだけはちょっと言わないかんな」ということがあれば、またこの後、一応予定は５時半までありますので、ちょっとここで小休止を取りたいと思います。

本来ですと、なかなか部会や審議会でそういうことは絶対にありませんけれども、あえて「クリエイト部会」ですので、小休止を入れて、後半の御議論に入りたいと思いますので、ちょっとだけ休憩を取りたいと思います。どうぞちょっとお茶を飲んでください。自由にしゃべってください。

（休　憩）

（再　開）

（青木部会長）

「経済・雇用対策」を前半にだいぶ出していただいたと思います。あと、「経済・雇用対策」において何か御発言等ございますか。「これだけは言っておかなければいかん」というのがありましたら。

もしなければ、続いての「安全・安心対策」のほうにまりりたいと思います。よろしいですか。

では、２本目の柱にいきます。「安全・安心対策」に関してですが、どなたか御意見ございますでしょうか。板東さん、出されてましたね。皆さん、板東さんに意見を求めていいですか。

それでは板東さん、お願いします。

（板東オブザーバー）

私の趣味に張り付いてしまうような話で申し訳ないんですけれども、私は自転車に乗るのが大変好きなので、あちこち、神山とかも行っています。ただそういう楽しく乗るということの一方で、交通機関として自転車をもっと注目してほしいなと思っているんです。

自転車って結構早いんですよね。私はそんなに速く走る方じゃないんですが、２５キロとか３０キロぐらいはすぐに出てしまうわけです。そうすると、どうしても車と、私は車道を走っているんですけれども、車とバイクと一緒にいることになってしまうし、そんなスピードで歩道を走ったら、歩いている人が大変なことになってしまう。やっぱりそういうのは、私としてはリスクが大きいわけです。

それで、どうにかしてほしいなというのが、職員の立場も全然離れて一人の自転車乗りとしての意見なわけなんですけれども、私もそういうことで興味があって調べてみたら、ちゃんと自転車の空間を整備しようというのがあって、自転車レーンをつくろうと。徳島でもちょっとだけ社会実験をしたとかということもあるわけなんですけれども、そういうふうに自転車を活用できるようにしてほしいなということです。

それは自転車のためだけということではなくて、車を運転している人のため、歩行者のためにもなる話なので、そこは是非お願いしたいなと。

そうなるといいなという方向性は多分、国交省、それから警察庁も考えていて、あとはやるだけのところがあるんです。ただ、やるのもなかなかお金の問題とか、それこそドライバーの理解とかいうのがなかなか得られるのが難しいなということがあって、そんなに上手いことはいってないこともあったり、上手くいってたりするところもあって。徳島の場合どうかというのは、あまりいい話ではないんですけれども、残念ながら徳島の運転のマナーというのは、自転車のマナーも含めてなんですけれども、そんなに良くはないだろうというのが正直なところでして、だからこそ、そこで上手いことといけば効果も大きいだろうし、それが発信できるようなことになるんじゃないかなと思っています。

ちょっと全然素人の意見なので、多分専門の方が中にいらっしゃるような気がしますので、そういう方から御意見をいただけたらと思います。

（青木部会長）

ありがとうございます。御意見を皆さん、お願いしたいと思います。

（福島副部会長）

自転車レーンって社会実験なさったのは、徳大の山中先生あたりがしてくださっていたかと思うんです。

（板東オブザーバー）

そうですか。私はそこすらも知らなくて、大変申し訳ないです。

（福島副部会長）

徳島県というのは、結構そういうのがあまり上手くいかなかったりするところがあるみたいなんですが。蔵本さんも自転車乗られるんですよね。多分、徳島の自然の中で整備していくというのは、かなり今後必要になってくるのかな、観光を含めてという点で、そんなふうな思いはありまして、私はそれとはかなり違うんですが、絡めるとしたら、道路を整備するときって、ここの道路を２車線にします、３車線にしますというだけで、そこにちょっと自転車のレーンをつくってくれたらいいのにとかという思いがあったり、あとは、山を切り崩して高台に移転しましょうみたいなところがあって、その切り崩した土をどこかに運んでいくんですね。でも、一方で低いところの土が足りないといってて、じゃあ、ここで切り出してそこに運んだらいいんと違うんとか。複合していろんなことができんかなというのはすごく思っていまして、多分、所管が違うからできないとか、そういう問題はあるんでしょうけど、地域全体で考えていくと、多分複合してやると、もっともっと効率的にできることがあるんと違うかなというような気がしますので、観光促進とか安全とか、いろんなところでその自転車レーンというのが関ってくるかと思いますので、どうしたらいいんでしょうか。

そのあたり、何か複合的にできるようなお知恵がないものかというような。規制があるんでしょうけれどね。

（岡田委員）

ここ２、３年前から「コグウェイ四国」というのがあって、四国を自転車で回るというイベントをやっている人たちがいて、そういう自転車のイベント自体が増えていったりしたら、整備をしなくてはいけないのかなみたいな話になってくるのかもしれないと。

「自転車王国とくしま」というのは、団体ですか。キャッチフレーズですか。

（板東オブザーバー）

あれは取組みたいな、別に特定の団体ではないです。県がそういう名前で売り出しをしている、プロジェクトみたいなものです。

（小原オブザーバー）

昨日の新聞で徳島市ですけど、自転車での通勤率が全国の県庁所在地で１番とか載っていましたけど、やっぱりあれだけ、徳島の人って自転車は結構、自分も乗っていますけど、かなり乗ってるので、「自転車王国」ってスポーツとかで売ってますけど、もっと生活的なほうも・・・

（板東オブザーバー）

私が言いたいのは、どちらかというと、生活に根ざした自転車の使い方ですね。

（青木部会長）

これをどないぞせないかんね。そうですね、あとは安全のことで言うと、子どもの教育に、全国共通の自転車検定をしようと。自転車を安心・安全のためには、これはまた皆さんとは視点が全然変わりますけど、僕が思うにはやっぱりマナーを守るということで、やっぱり教育の部門ですね。

小さいとき、自転車検定とか皆さんしませんでした。（しました。検定ですか。教室。）自転車教室でしたっけ。（教室は今でもやっています。）やっているんですね。阿南は「自転車検定」っていうて、子どもが小学３年生になったら自分の自転車を持って行って、白線の上で右とか左とかして、それに合格せな塾とかにも行ってはいけないんです。自転車で。

（福島副部会長）

私もそうでした。何か木の札をくれました。

（青木部会長）

そうでしょう。何かあったでしょう、福島さん。みんな徳島県民やね。

（福島副部会長）

こんなんくれるんですよ。かまぼこの板の・・・なかったですか。

（青木部会長）

つまり何が言いたいかというと、教育の中にも自転車マナーを守るような、今、言われたとおり、教室であったり、マナー検定みたいなものを全国一律ですればいいんです。逆に言うたら。

これは提言ですから。そういったものもいいんじゃないかという、これは私の意見です。

他に何か自転車関係で。

（岡田委員）

視点としては「エコ」なんですよね。「エコ」という視点で、例えば自動車を持たなくて自転車の通勤を推奨した企業に対して、何か褒美、表彰だとか、それは簡単にできることだと思うんですけれど。

そしたら、さっきの自転車通勤率が日本でも多いということになると、何かそういうブランディングができたりとか。

（小原オブザーバー）

私も市役所の話ですけど、日中に仕事で出かける時も、市の職員って自転車で出かけることが多いんですよ。外回りで自転車というのが多くて、そういうのをどんどんやっていったらいいかなと。車で行かずに５キロ以内は自転車とか、ちょっと遠いですけど。しょっちゅう使っているんですけど、結構、行ったら「あれっ、自転車で来たん」って言われながらやっているので、今ちょっと市のＰＲも担当しているので、そういうのも振ってみようかなと、今思いました。

（福島副部会長）

自転車ってエネルギーは蓄えられないでしょうか。自転車そのものの何かを改良すれば漕いだ分だけエネルギーを蓄えていって、何かに変換できるシステムがあったらいいなというような気がしたんですけど。今、渦でも発電しようかなという取組がされているようなので、そんなのは自転車を作る会社の技術かと思いますが。

（青木部会長）

自転車の技術革新をやりましょう。

（近森委員）

地球温暖化対策でいったら、地球温暖化のグッズみたいなやつを紹介するような施設、「徳島県地球温暖化防止活動推進センター」というのが沖洲にあるんですけれど、そちらは徳島ではないんですけれども、香川だったら、そういう自転車を漕いで実際に発電させてみたりとか、そういうのであったり、高松でその団体も含めてうどん屋さんに自転車で行ったら、食べ物じゃないんですけどチケットをもらえて安くなるとか、そういうイベントをしたりとか、環境目線でもこの自転車でいろんなイベントとかは他県では始まっているので。

（青木部会長）

環境と自転車を絡めたイベント的な観点で、エコにもなるしね。他に何かないですか。御意見。というと、急に出んようになるんよね。はい、どうぞ。

（竹内委員）

僕もさっきの岡田さんの意見に賛成で、もっとイベントを増やしてほしいなと思うんですよ。

自転車に乗っている人というのはすごく意識が高くて、自転車に乗っている人はルールを大抵守っているんですよ。左側通行もかなりきちんとやりますし、ライトも点けますし、信号無視も当然しないですし、そういうアスリートの人たちをもっともっと呼んできたりとか育てたりすると、マナーを守ること自体が格好良くなって、マナーを教育で詰め込まれて嫌々守らされているのではなくて、守ること自体がプライドといいますか、格好いいことというふうに、もっともっとしていってほしいなと思います。

（青木部会長）

是非自転車イベントを呼ぼうか。ねえ板東さん。

（板東オブザーバー）

今でも県も関わっていろいろあることはありますので、呼んでくるのも意味はあるかもしれませんが、今あるやつに皆さん参加していただければ、多分、より楽しいんだろうなと思います。

（岡田委員）

東京では僕はよく自転車便というのを使うんですけど、５００円で２３区内を配送してくれる便があるんですけど、2時間ぐらいで行ってくれるんですけど。徳島でできるかどうかはわかりませんが、市内とか5キロ圏内であればそういう自転車便、バイク便みたいな郵送してくれる人たちを、例えば、もうリタイヤした人とかで、ちょっと体力をつけたいという方とかにやってもらって、そうしたら糖尿病も・・・（面白いね。そうですね。糖尿病対策にも関連するというか。）（ちょっと時間がかかったりして。）（時間どおり来んのと違いますか。）

（青木部会長）

アイデアとしては今のはいいですね。

（福島副部会長）

トライアスロンのイベントってあるんでしょうか。

（板東オブザーバー）

ありますね。美波町でありますね。御存知ないですか。

（青木部会長）

他、ないですか。この自転車に関してないですか。

（川眞田委員）

私は仕事で定期的に勝浦町まで行っているんですけど、車の免許を取らないまま大学生活を終えてしまって、というのも、実家に帰ろうと思ってたんですけど、いろんなあれで就職が決まって、実家は鹿児島なんですけど、帰らないからいいやと思っていたんですけど、徳島で就職することになって、車がないと徳島って不便ですよね。

今更なかなか取るタイミングがなくて、勝浦へ行くときはバスか、同僚に車を出してもらって一緒に行ってたんですけど、同僚の仕事の関係とかがあって私一人で行かないといけないときに、バスが午前中に２本で、夕方に２本とかで一番重要な時間にないということがあって、朝、向こうに行って何時間も待って打ち合わせを１時間して、また何時間も待って帰ってくるわけにはいかないので自転車で行っているんですけど。

大体３０キロぐらい片道があって、大体４０分から５０分ぐらいで、幸町から行くと着くんですけれど、今、バスがどんどん減っていってて、ちょっとした近距離の移動もバスにしていたんですが、歩くと遠いけど車で移動するほどじゃないみたいな距離をバスを利用していた人が周りにいて、そういう人たちの話を聞いていても、バスが廃線になっているのがすごく多くて、じゃあ交通機関をどうするかというと、じゃあ自転車というふうになっていくんですけど。

自転車に乗り始めたら、ずっと話に出ているんですけど、車道を走るのも危ないし、かといって歩道もいまいちで、なんかよくわからないですけど、「なんでそんな工事をしたんだろう」と思うんですけど、なだらかだった道がすごいボコボコになっているのがあって、いつなだらかになるんだろうと。せっかくすごくきれいな道で私が気に入っていたところなんですが、すごくきれいな道で周りの景観もきれいだし、道もきれいですごく気に入っていたんですが、ある日突然工事が始まってどうなるんだろうと思っていたら、すごく汚くなってイライラするし、タイヤもすごくパンクしやすくてロードとかだと。

で、もう通れなくなってしまったりして、そうしたら交通量の多い道を選ばなくてはいけなくなって、道の問題はどうしても個人的にとか、自転車をやっている仲間としてはどうしようもないところがあるので、徳島市の県庁所在地の自転車通勤率がすごい高いというのも、実家のほうに帰るとあまりそういう姿は見ないので、特に感じるし、道ももう少し自転車が走りやすくなると、いろんな点で使う人が多いのかなというのを感じました。

（青木部会長）

道は大事よね。自転車も道の確保じゃないけれども、やっぱり自転車ゾーンができるような感じに

持っていったらいいと思いますけどね。

他にないですか、自転車関連は。いいですか、岡田さん。

（岡田委員）

例えば、「しまなみ海道」があるじゃないですか。大鳴門橋をね。

（青木部会長）

来た来た。それを意見で言おうと思っとったんよ。どうぞ。

（岡田委員）

さっきのイベントという、カッコいい自転車乗りを増やすということで、「ルール・マナーを守れる人たち、そういう人たちのほうがカッコいいんだよ」というのを、そういう文化を創生するというか、そういう意味ではそういうイベントもありそうです。

（青木部会長）

それは可能ですかね。板東さん、可能だと思います。

（板東オブザーバー）

どうなんでしょうね、ちょっとそこは。急に職員の顔に戻ってしまいました。

（青木部会長）

僕が思っているのは、今、岡田さんが言ったとおり、来年、高速料金が共通になるんですよ、確か。それに合わせて、自転車を大鳴門橋通すようにしましょう。みんな笑ってますけど、本気ですよ。

それか、もしくは「ツールド徳島」。これは板東さんは多分夢に描いておられると思います。それを淡路島を使って、淡路島は元々徳島県だったので、これを言うと知事が喜ぶんですけど。淡路島に自転車で行きたいという需要は非常に多いんですよ。

今、徳島から淡路島に行こうとしたら、渡し舟が、あるのかないのか。今はないんですね。フェリーがなくなったので、そうすると自転車が通れないんですよ。事実上。

そしたら、やっぱり関西圏から自転車の需要の方々を招くには、今は南海フェリーでバイク・自転車のなんか統一千円のようなキャンペーンを打ったりしています。だけどやっぱりそうじゃなくて、淡路島から来たいという要望が、多分これはアンケートを取っていただいたら強いと思うんですよ。だから、是非とも鳴門大橋を自転車が渡れるようにしたらどうかなと。これは笑いながら言っていますけど本気です。

それぐらい大胆な発想でやったほうがインパクトもあるし、変な話、全部封鎖して、映画じゃないけれども、自転車で大鳴門橋をバーっとわたるのをしたらいいんですよ。そのぐらいやるような勢いでやれば、全国から注目を浴びるし、世界的にも注目を浴びるんじゃないかと。

関西圏から徳島の東西南北Ｔ字ラインでもいいんで、そこのラインをレースするという方向に持っていけば、大きなイベントができるんじゃないかと思います。

それと、県南に「阿波サンライン」というのがあるのを、皆さん御存知ですか。「阿波サンライン」といって、美波町の日和佐というところから牟岐町まで、出羽島とか牟岐大島が見える景観のきれいなスカイラインがあるんですよ。それが廃止になって、今現在無料化で、いろんな団体さんが景観を保つために、ボランティアで清掃活動とかもしています。

そこを使って自転車レース、確か今、いろんなレースはしよんですよ。そうじゃなくて自転車に特化したレースをするというのも一つの大きなイベントじゃないかなと思います。板東さん、是非それを推進していただきたいなと思います。

（板東オブザーバー）

そういうふうに言っていただいてありがとうございます。昔、国体か何かのときにあそこがコースだったと聞いていますし、（そうです。）それから福島さんがおっしゃったトライアスロンは、あそこを会場にやってますので。

（青木部会長）

是非それをイベントで、自転車のために。

（板東オブザーバー）

実はイベントにもう入っているんです。（入っているんですか。）「四国の右下ロードライド」というのがあって、「まぜのおか」をスタートして日和佐まで行って、そこから阿南へ行って赤松越えで帰ってきて、日和佐からサンラインを通って、また「まぜのおか」に帰ってくるという、確かそういうルートだったのでサンラインを通ることになってますので、是非よければ参加してください。

（青木部会長）

参加はいいですけど、見には行きます。そういったイベントを打ち出していくべきだなと思いますし、自転車のみならずバイク、これは「宝の島・とくしま」のほうでも被るところもあるんですが、バイクのレースもしたらいいんですよ。

これも本気で言っています。バイクのレースも、結構バイク人口、減少傾向にありますけど、県南域は高知へ抜けて、室戸へ抜ける「ルート５５」というのはロードレースの間では結構有名なんです

よ。それも「阿波サンライン」を使って、板東さん、あそこでレースをしましょうよ。ちょっと危ないですけど。

そういった大胆な企画を打ち出していただきたいと。これは個人の意見ですけど、思ってます。

じゃあ、話を元に戻します。「安全・安心対策」、他、皆さんいかがですか。

（池添委員）

皆さんの意見を聞いて思いついたんですけど、いいですか。高速バスで自転車便をつくったらどうでしょうか。ヨーロッパとかにはありますよね。

（板東オブザーバー）

すみません。先に飛んでしまうんですけど、「サイクルトレイン」のところで、これは列車のことなんですけれども、バスの後ろに自転車を乗せるものがあったりするというのもヨーロッパであると聞いているので、今、池添さんが言っていただいているのも私はいいなと思っているし、そういうのが実現してほしいですね。

（青木部会長）

何か規制があるんですか。

（板東オブザーバー）

どうなんでしょうね。私もわからないことが多すぎて、一番最初の保育士の賃金の話から何から、いろいろ制度というのが複雑なもので、私たちの知識を超えているので楽しい話ではあるんですが、実際、どうなんだろうというのがなかなかわからないところがあって、やっぱり知っている人に教えてほしいなというところがちょっとあるんですけれども。

（青木部会長）

今の池添さんや板東さんの発想で、その高速バスに自転車を乗せたら、逆に言うたら、今、僕の言うとおり関西圏から、もしくは東京から岡田さんが自転車を持って高速バスで帰ってきてくれるかもしれませんし。そういうことが可能になるんじゃないかなと。

（板東オブザーバー）

現実の話としては、バス会社は嫌がります。持ち込もうとしたら、大体駄目と言われます。私も持ち込もうと思ったことはあるんです。ＪＲは車輪を外して分解して袋に入れたらオッケーなんですが、バスは他のものを壊してしまう、若しくは自転車自体が壊れるということがありがちなので、駄目っ

て言われますね。

そこは行政分野というよりは、多分、各交通事業者さんの世界なので、直接的にはですね。

（青木部会長）

規制等は特にないんですかね。その荷物になるんですかね。小型荷物になるんですか。

（池添委員）

ヨーロッパで見たことがあるのは、自転車をバスの後ろに掛けていますね。

（板東オブザーバー）

フックがついていて、そこにポンと置くという・・・

（池添委員）

やっぱり壊れますか。

（板東オブザーバー）

どうなんでしょうね。高速バスはさすがになかなか少なくて、市街地の乗り合いバスぐらいだとは思うんです。そういうのはそんなに壊れない。上手いこと乗ったというのはあるんじゃないかなとは思います。

（青木部会長）

折り畳みだとあかんですか。

（板東オブザーバー）

折り畳みだと、多分、そういうバスの利点というのは、何も面倒なことなしにポンと乗せるだけというところが良くて、それこそ、買い物に行った・・・

（青木部会長）

わかりました。

（板東オブザーバー）

多分、おっしゃりたいことはそういうことかなと思います。すみません。

（青木部会長）

わかりました。でもいいアイデアだなと思うので。

他にないですか。話がだんだんそれて行くので、僕が喋るといかんので、他にありませんか。「安全・安心」の部門でございますか。どうぞ。竹内さん。

（竹内委員）

「安全・安心」という意味では、やっぱり行政からのメッセージが適確に届かないといけないと思うので、僕も送らせてもらったんですけど、「すだちくんメール」をもっと活用しないといけないなと思うんです。

「すだちくんメール」って知っている方っていらっしゃいますか。入られている方、かなり少ないですね。

（青木部会長）

あれは登録しないとあかんで。みんな。

（竹内委員）

これは皆さんが悪いわけじゃなくて、システムが悪いんです。新しいシステムが入ってきてないんです。もっと商魂たくましい一般企業を見習ってほしいなと思いまして、どこかにご飯を食べに行ったときに、メール会員とかってありますよね。あれって一瞬でできるんですよ。ああいうシステムになってないと、それは、例えば「ヤフーＩＤ」を取ってくださいといっているようでは駄目ですし、ガラケー対応してませんでは、今はガラケー、スマホの普及率って多分全国で５０パーセントぐらいだと思うんですけど、徳島県は多分、東京とかよりちょっと低いと思うので、半分に満たないと思うんです。

だから、半数以上の人は、まだガラケー、スマートフォンじゃない昔の折りたたみ式の携帯みたいなのを使われていると思うので、そういう人をまず除外してしまうと、その時点で加入率半数以下なのは確定してしまうので、ちょっとそれはひどいなと。

（板東オブザーバー）

一点いいですか。ガラケーも対応してますので。私もこれで見えますので。

（竹内委員）

サイトを見たんですけど、「近日対応します」というふうに出ていたんですが、もしかしてサイトのメンテナンスの方が・・・話を戻しますけれども、加入率を上げていただきたいなと。で、「安全

・安心」とかに繋げると、例えば、災害意識って時間が経てば経つほどみんな薄れていくので、「定期的に備えはしてますか」とか、「避難路はわかっていますか」とかというのを月１でも配信してもらえるといいなと思いました。

（青木部会長）
今、竹内さんが言ったように、今、ＰＭ２．５の問題とかそういったことも含んでいるという意味ですよね。危機管理の観点からいうと。

（竹内委員）
そうですね。そういう正確な情報はできるだけ行政からもらったほうがいいと思うんですよ。

（青木部会長）
わかりました。他、「安全・安心」でございませんかね。

（岡田委員）
ちょっとわからないんですけど、バイパスの木がちょっと少ないと。
木はあるんですよ。まちづくりの観点というのはちょっとわからないですけど、景観・・・

（近森委員）
だんだん減っていったんですよ。私はあの通りに住んでいたんですけど、だんだんと木が倒されていって道幅が広くなったんです。
バイパスの真ん中の中央分離帯も、昔は結構たくさん木が植わっていたんですけど、だんだんと切り倒していって、道幅を広げて今の状態になっていると思います。

（岡田委員）
グリーンがあると心が和むので交通事故なども減ると思います。それが本当に相関関係があるかどうかはまだわからないですけど、すごくちょっと寂しいなという感じが最近していて、この「安全・安心」に繋がるかどうかはわからないですけど。

（福島副部会長）
都会のほうが多いですよね。緑は。

（岡田委員）
皇居とか、木が大きいんですよね。それを残そうとしている取組もあるので。やっぱり、ヒートアイランドとかもあるので、できるだけ木を置いておかないとというところもあったりするんだと思いますけど。

（青木部会長）
ありがとうございます。

（池添委員）
建築系の人間で「街路樹を考える会」みたいな、そういうのがあって、建築系の人間とかもそういうことにすごい興味があるし、そういう、町並みとしてもやっぱり木があったほうがいいしというのもあるんですけど、実際のところ行政側の視点で、「木の管理、落ち葉で事故があったときに誰が賠償するか」となったら問題があるから、そっちの安全を優先していたり、「近所の家の人が掃除が」とか、「木の枝が土地から出たらあかん」とかあるから、その辺をやっぱり県民意識の改善とか、「ほんまにどっちがカッコイイんか」というところに全部繋がってくると思うんですけど、その辺を「こっちがいいよね」という発信をしたらいいと思います。

（青木部会長）
ありがとうございます。

（福島副部会長）
「すだちくんメール」、なんかガラケーの人はパソコンも必要みたいです。

（竹内委員）
すみません、そうですね。板東さんが正解です。ちょっと間違ってました。登録をするのにガラケーだけではできないんでした。パソコンで登録をすれば、ガラケーでも見れるという状態でした。すみません。

（福島副部会長）
でも、実際問題、パソコンを持ってないガラケーだけの方、多いですよね。
（竹内委員）
そうですね。最近、ガラケーとかスマートフォンとかどんどん進化しているので、ますますパソコンを持っている人がちょっと減ってきているんですよね。

（青木部会長）

そこはしっかりと。大事なことなので。

他にございませんか。２番目の「安全・安心対策」、よろしいですか。

（池添委員）

すみません、８番に書かせていただいていたので。防災のことを中心に考えたらいいのかなとこれを見て思ったので、無理やりというか、防災の観点で考えて、住宅の耐震化とか建物の耐震化とかはだいぶ進んでいたりとか、関心も時期的に強いと思うし、徳島県でもいろんな取組をされていますけど、あとは避難路を公共的な建物は点検はしているんだけれども、やっぱり住宅となると私有財産なので、その辺は管理を公共の立場としてどう対応するかといったら、やっぱり避難路をふさぐものは、行政の立場から規制とかも考えられるんですが、そういうようなこととか、漁村集落で空き家とかが全部なくなったら、今度は景観とかに繋がってくるので難しいところだと思うんですけど、補強というか、倒れないようにだけはしておくとか、そういう観点は必要かなと思います。

（青木部会長）

ありがとうございます。他に御意見ございませんか。

（小原オブザーバー）

地震とかのことで、今の地震で家が倒れて経路がふさがれるとか、その防災面でやっぱり地震ってインフラ系、私も阪神で地震に遭って、仙台の地震とかも応援に行ったりして、いろいろ災害に縁があるんですが、やっぱりインフラが全部駄目になるので、特に電気とか道路、避難経路とか、その辺の代替手段というか、そういうのを予め持っておくような施策というのを国とか行政で進めていけたらなと。

例えば、避難経路、道路がふさがるのであれば、もし徳島市だったら、今「川の駅」とかで水上交通とかをやっていますけど、橋が落ちたときの代替手段として水上交通を使うとか、その水道が止まるのだったら、止まってもいけるように何か地下水を汲み上げるような何か仕組みをつくっておくとか、そういう代替インフラの整備というのを進めるような施策というのがあったら、いいのかなと思ったりします。

（青木部会長）

わかりました。ありがとうございます。

この「安全・安心対策」、これをずうっといくと、私もよく勉強をさせていただいているんですが、尽きないような話だと思います。時間的にも５時１０分が来てしまいましたので、続いての「宝の島

・とくしま」に移りたいと思います。よろしいですかね。

「宝の島・とくしま」のことは、皆さん御意見はたくさん出ていますので、ポイントを、「私はこう思う」というポイントを端的に言っていただきたいなと。もちろん、キーワード的なこと等を入れて言っていただければなと思いますので、よろしくお願いします。

じゃあ、まだ言っていない島さん、お願いします。

（島オブザーバー）

「宝の島・とくしま」に関してなんですけれども、事前に委員の皆さん方からも出ているんですけれども、徳島は車がないと生活できないということをよく聞くんですね。

そこで、公共交通機関の発達というのが重要になってくると思っております。私は車とかを使えるのでどこでも行けるんですけど､お年寄りとか子どもとかといったら不便に感じていると思いますが、さっきも路線がどんどん廃止されているとかもあって、そういうのをもうちょっと何とかしていく必要があると思っております。

バスとかの路線の廃止に関しましては、例えば、スクールバスの活用だったりとか、乗り合いバスの活用だったりとか、他と連携して何かできないかなというのは思っているところです。

（青木部会長）

わかりました。ありがとうございます。

榊原さん、横へ行きましょうか。

（榊原オブザーバー）

私も１２番の意見を出させていただいたのですが、これは素人目線の、子育ての母親目線になるんですが、私自身もそうです。周りも小さい子どもさんを持っている御家族の方が外に遊びに行く、出かける場合というのは､自分の車で出かけることがほとんどだと思うのです｡それはなぜかというと、周りに迷惑をかけるだったり、荷物が多かったり、オムツを変えるところ、授乳できるところというのを公共の交通機関を使っている間、確保が難しいというのがあるんじゃないかと思います。

で、そういう子育て世代が公共交通機関をもっと活用できる、で、なおかつ公共交通機関を使って徳島県内いろんなところへ出かけていける。で、そして地域を活性できるということで、鉄道であれば、都会であれば通勤ラッシュの間、「女性限定車両」とかあると思うんですが、それを週末、日曜日のこの時間はファミリー限定の車両で、土足厳禁で靴を脱いで上がれて、授乳場所として使える位置があるとか、それであれば、子育て世代が乗り物自体もアトラクションの一部として考えて、なおかつ遊びにいった先でも楽しめるというので、どんどん公共交通機関とプラス地域の活性化というのが併せてできんかなというので、このようなものを出させてもらいました。

（青木部会長）
　そうやね。アンパンマン列車だけでは無理やもんね。僕もアンパンマン列車は乗りました。ですから、ああいうイメージの普段からできる公共交通機関のイメージですよね。

（榊原オブザーバー）
　そうですね。それを行政なりでもうちょっとサポートできて、民間会社が参入できるようなシステムができたらいいんじゃないかと。

（青木部会長）
　わかりました。ありがとうございます。
　では、石井さん、まだ発言がないのでどうぞ。思っていることでいいので。
石井オブザーバー　広島県の例なんですけど、広島県がテレビに出てて、「おしい県」って御存知ですか。「おいしい」に「い」が足りないとか。ちょっとあれを見て思ってたんですけど・・・

（青木部会長）
　「おしい！広島県」ね。

（石井オブザーバー）
　そうです。レモンの生産が第２位とか、あれを見ててちょっと思ったことがあって、全然ずれているかもしれないんですけど、徳島を「得します県」というふうになぞって、「損得勘定」の「得」ですね。徳島のいいところを集めてなんかＰＲしたらいいんじゃないかとちょっと思ったりしたんですよ。「とくしま」に「す」を足して「得します県」。

（青木部会長）
　「得します」ね。「得する」ということですね。

（石井オブザーバー）
　私も県外に大学時代住んでいて、都会的要素は徳島には要らないと思っているんです。なので、県外の友達みんな若い人でも癒しを求めていると思うので、そういうＰＲの仕方があるんじゃないかと、勝手に思っています。

（青木部会長）
　ありがとうございます。じゃあ、あとタレントを誰にするか考えておいてください。

では、山下さん。

（山下オブザーバー）

２３番のゴミ収集システムのゴミの話ということで、実は東北の震災とかがあって、見よったら漂流物とかが流れてきているのがあって、それに絡めてなんですけど、やっぱり道にゴミとか何かあった場合に、そういう地震とかが起きた場合に、当然景観の話もあって、私も前に市内で道をつくっていたときに、道端にゴミとかがようけあったときに、非常に歩いている人にも邪魔やし、散乱していたらごっつい汚らしかったんですけど、私は土木の人間なので、防災という面でもって、そのゴミ収集システムをどないかならんかなというのがありました。

ただ、道路上にその占用許可を取ってというのは、なかなか個人では難しい話があって、公共団体である程度ハードルをクリアーしていかないかんというのがありまして、原則、個人さんのところにつくらないかんというのがあるんですけど、今はボンボン住宅地とか分譲地とかってどんどんできよんですけど、そういう分譲地とか新しい家を建てるときにゴミの場所も計画立ててあったらええんかなと思いますし、あとちょっとゴミから外れるんですけど、その漂流物という観点からいうと、さっきの防災のところで言えばよかったんですけど、結局、徳島って船とかがあるんですけど、停留している人が多いんですけど、そういうのを除けていかないかんというのがあるんですけど、なかなか難しいところがあって、そういう係船方法とかも画期的なもの、水が来たときも流れていかない、そういうのを考えたらいいのかなと。

さっき、代替交通で水上交通というのもあるんですが、それも川に阻害しているものがあれば難しいと。

あと、橋の耐震化もありまして、どれだけの地震が来るかもわからないので、なかなか水上交通も難しいと。そうなると、そういう邪魔なものをできるだけ除けないかんのですけど、はじめからそういうのが出てこないまちづくり。当然景観の面でも大事で、さっきの木もそうなんですけど、木も災害に強い、根が浅いやつというのはすぐに倒れるので、よく砂浜とかに防砂林でやっているようなやつは、元々人が住んでなかったところに砂が飛んでくるので、人が植えたやつが震災で流れて来ているので、そのあたりのまちづくりも、何かよくまとめてないんですけど、考えながら、そのあたり、ゴミの収集システムにしても、そういうまちづくりも景観と同時に、防災ばかり考えたら全然面白くもないまちづくりになるのかもしれませんけど、今、私が言っているやつとかでも、看板一つにしても風が吹いたら倒れんように設計をしているんですけど、そんな中に、例えば水の力が来ても流れないとか、そういうのを想定しもって、できたらいいんかなと。

一応、「宝の島・とくしま」の中で、「水の都とくしま」みたいなものを、景観の面でも防災の面でも売っていけたらいいんかなと思いました。

（青木部会長）

水でいうたら、「水都・徳島市」やね。今ピンと思い出しました。

（小原オブザーバー）

そうです。「心おどる水都・とくしま」で売っています。

（青木部会長）

専門的な知見から御意見をいただきました。確かにゴミの問題というのは、事前から考えておかんと。いざ起こった後ではというのは東北の事例でも見受けられますので。

（山下オブザーバー）

実は、その自転車のやつでも頭が痛い御意見があって、ちょっとつつく気はなかったんですけど、いろいろありまして、道がああなっているのもつくる側としていろいろ理由があるもんですから。その、自転車が通るにしても、私は前、県庁に通いよったんで、自宅が田宮なので自転車で通勤をしていたんですが、結構徳島の道って確かにガタガタなところがあって、ちょっとお尻が痛くなって、そのあたりがあって途中から面倒くさくなって歩き出したんです、県庁に行っているときは。そのあたりで、自転車が通る環境もやっぱり整えていかないかんのやなと。自転車の意見でごっつい熱くなっていたので、頭が痛かったんですけど、その辺も頑張っていかないかんのかなと。

ただ、計画自体、土木ってどうしても長いので、図面等が昔の規格で、その間にいろいろ仕様書とか、道路法のそういう細かい部分というのが改定されていて、つくり出したら今と似つかわない、今のトレンドに合ってないようなものをつくっているところもあるので、なかなか難しいところもありますけど、それらを聞きながら改定できたらいいんですけど。

（青木部会長）

でも、身を持って体験されているので、非常に一番説得力がありました、個人的に。わかりました。ありがとうございました。

他、皆さん、「その他」の項目等も重なるんですけれども、そろそろ時間のほうが迫ってまいりましたので、「これだけは言うておかないかんな」と思うことがありましたら、どなたかございませんか。

もう最後になります。「これだけは言うとかないかんな」というのを。今日は項目をたくさん出していただいてあれなんですけれども。一応、全員皆さんには順繰りに当ててお聞きしたとは思うんですけれども、他に「これだけは言うておかないかんな」ということはありますか。

（福島副部会長）

私はこれだけは聞きたいんです。１０番の御意見ですが、これを聞きたいです。

（青木部会長）

竹内さん、どうぞ。

（竹内委員）

「フリースポット」って、無線ＬＡＮとかがタダで使えるのを県が設置するというんですけど、これってコストは相当安いと思います、費用対効果という意味で考えますと。割と何箇所かに点在するかたちでスポットを置いていけば、多分、徳島市を簡単に被えると思うんです。

これをやってあげると、インフラ的な強みもありますし、そういうので売っていけるのかなと。「ひかりの県徳島」でしたっけ、「ひかりのくに徳島」でしたっけ。何かＰＲしていると思うんですけど、「ひかりの」と言っているのは、光ファイバーがケーブルテレビとの関連で全県に渡っているというのと、あと、日亜化学さんのＬＥＤの絡みで多分「ひかりの」と言っていると思うんですけど、実際言うほどみんな、徳島県の人がバリバリインターネットを使っているかというとそうでもないんですよね。そのあたりと絡めてこういうのをいっぱい設置して、徳島県はどこでもインターネットが繋がるんだよとやっていけば相乗効果でもっと盛り上がっていくのかなと思って提案しました。

（福島副部会長）

これはすごい私は気になってまして、徳島を出て行ったら何も使いようがないですよね。自分で持っておかないと。なので、かなり不便な思いは私も結構してまして、結構コストが掛かるものなのかなと思ってたんですが、今、伺った限りではそうでもないんですね。

（竹内委員）

そうですね。さっきの「サテライトオフィス」の神山町というところは、結構そういうのに積極的でして、何箇所かに今もうフリースポットは置いてて、さらに、民家のおじいちゃん、おばあちゃんの家に「電気代も、ルーターという機械を置くだけで大して掛からないから置かせてくれない」って交渉して置いていこうとしているんです。

そしたら、神山町の主要な道のあたりは、全部インターネットが繋がるぐらいは実現可能なんですよ。なので、似たようなことを徳島市でもすぐにできるのかなと思って提案しました。

（青木部会長）

是非それを提言として。

他にございませんか。その他、何でも構いませんので。

（川眞田委員）

「係船方法」、船をとめておく方法ってさっき出てたんですけど、鳴門までの水路があって「撫養航路」というんですけど、そこを通っていたら、船を普通にとめてある、駐車場にとめてあるみたいにとめてあるんですけど、大体それは不法というか、とめてはいけないところにみんなとめているそうなんです。

で、車検みたいに検査しないといけないんですが、それも何年も受けてないそうなんですけど、結局その船の持ち主に対して、船をとめておけるエリアが少ないみたいで、だから不法係船をしてしまっているので、それを増やしてもう少し手入れをするとか、放ってある船に対して検査をしないまま、何も取締りがないというか、放ってあってそのまま。それで、この間の地震のときに新町川まで流れてきて、それを遊覧船で引っ張ってきて移動させるみたいなことがあったんですけど。見つかったら厳罰があるんですが、見つからずに放っておけばそのままみたいなものがあるみたいなので、完全にその係船できる場所を増やすのと、あと、その検査を受けなかったものに対してもう少し厳しく対応するということで、多少改善できるのかなと思いました。

（福島副部会長）

それって何か特別なインフラの整備は要らなくて、ライセンスの問題なんですよね。きっとここを設置する・・・

（川眞田委員）

もしかしたら、遊覧船乗り場とかも全国ですごい珍しいので、あんな川の真ん中にああいうのがあってというのは珍しくて、例外的らしいので、規制が少し緩くなれば、もしかしたら可能なのかなとは思うんですけど、ちょっと詳しくなくて・・・

（福島副部会長）

特に手入れをするのであれば、県とか各自治体の収入になってきますものね。

（青木部会長）

はい、わかりました。他、ないですか。よろしいですか。大体出尽くしましたかね、皆さん。
わかりました。それでは、たくさん御意見をお出しいただきありがとうございました。

それでは、このあたりで意見交換会を終了したいと思います。本日皆さんからいただいた意見については、今後、新たな政策創造の「種」、「ヒント」として出させていただきましたので、事務局に

おいて、今後の県の施策等に役立てていただければ幸いだと考えております。

これを全部もう一回読み直せというと、なかなか難しいので、それは割愛させていただきます。

それから次回の開催、今日が２回目。次回の開催は８月頃に開催することとしております。次回、どのような運営とするか、また今後、皆さんに御意見を聞きながら決めてまいりたいと考えております。

また、部会運営に関する御要望等がございましたら、とりあえずはメーリングリストを活用してまいりますので、メーリングリストにてお知らせいただきたいと思います。

このような方向で、今後もクリエイト部会をやっていきたいと思いますが、皆さん、よろしゅうございますか。

もちろん、「青木さん、そんなダラダラせんともっと締めてやってくれ」といったら、もっと締めてやりますけど、こういった感じでよろしいですか。

（岡田委員）

間が開いちゃうじゃないですか。３か月、４か月空いちゃうので、なんかせっかく今日議論した・・・

（青木部会長）

もっと詰めますか。今回は「政策提言」というテーマだったので、本当は１回目に言ったように、長いスパンで夢のある政策を１年ぐらいかけて分野を分けてやっていこうかなというのが、本当は念頭なんですけど、今回は、たまたま国の政策提言等が５月にあるので、その準備ということで、皆様の御意見をちょっとでも反映させようという試みでやった経緯ですので、すみません、そこはちょっと説明不足でした。

一応そういった感じでやりますので、よろしいですか。

それで、８月といっても、その間にひょっとしたらいろんなことがあるかもしれません。また緊急の提言等も、もし皆さんから、「青木さん、これは必要だよ」と言うたら、召集をかけるかもしれません。それはまた事務局等ともお話し合いをしながら柔軟にやってまいりたいと考えてます。

一応、目安は８月だけど、もしかしたら６月にあるかもしれんし、その辺は柔軟にやりますので、皆さん、メーリングリストを必ず見てくださいね。「ああ、また来とる」といって、クリックして消さんようにね。必ず見てください。

では、そのように調整したいと思いますので、よろしくお願いいたします。

最後に事務局から、何かございますでしょうか。

（事務局）

長時間にわたり御議論ありがとうございました。

本日の議事録の公表につきましては、事務局で取りまとめまして皆さんに確認いただきまして、確定した上で公開したいと思いますので、その時にはよろしく御確認等お願いいたします。

（青木部会長）

事務局から説明がありましたとおり、本日の会議録の取り扱いにつきましては、事務局の説明どおりとさせていただいて、皆さん、よろしいですか。

では、そのようにさせていただきます。では、これで本日の議事を終わらせていただきます。皆さん、議事運営に御協力いただきありがとうございました。

（七條政策創造部副部長）

長時間にわたり、どうもありがとうございました。

青木部会長さんの熱い議事進行によりまして、盛りだくさんの内容で２時間にわたって御議論いただきました。本当にありがとうございました。

今回は先ほどにもございましたように、「政策提言に向けて」ということで、三つのテーマで議論をさせていただきました。なかなか「政策提言」というのは馴染めない分野でございますので、なかなか議論がしにくいところもあったかと思いますけれども、私が聞いておりまして、「なるほど」といった議論もたくさんございましたので、今後の「政策提言」に大いに反映していけるのではないかと考えております。

皆様方におかれましても、本日は議論を持ち帰って、自分でまた考えていただいて、自分の仕事に活かすとともに、これからの部会の議論の中で、また熱い議論を戦わせていただけたらと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

今日はどうもありがとうございました。以上をもちまして閉会させていただきます。

（以上）